

# 運動療育スクール jump

## 5領域支援プログラム



事業所名 運動療育スクール jump  
作成年月日 2024年11月1日

### ● 法人（事業所）理念

「楽しく運動しながらソーシャルスキルを学び、健やかに生きるための基礎作りを行う」

### ● 支援方針

#### 【児童発達支援】

利用者が楽しく身体を動かすことで実体験から心身の健康や発達を促進できるように運動療育を行うものとする。

#### 【放課後等デイサービス】

利用者の運動習慣と運動技術の習得により、生涯にわたり健康で活動的な生活が送れるよう基盤をつくとともに、コミュニケーションやルールなどの社会性も習得していけるよう療育を行うものとする。

### ● 営業時間

平日 10:00～19:00  
土曜日 9:00～18:00  
長期休暇 9:00～18:00  
※行事等により、  
営業時間を変更する場合があります。

### ● 送迎実施

有り

### ● サービス提供時間

平日 13:00～17:30（放課後等デイサービス事業）  
土曜日 10:00～17:00（児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業）  
学校などの長期休暇等 9:30～16:00



# 5 領域支援プログラム

## 健康・生活

- 身体活動量を増やすことは睡眠の質の向上に繋がります。昔から寝る子は育つと言われている様に、身長を伸ばしたり丈夫な骨をつくる為には睡眠時に分泌される成長ホルモンが欠かせませんし、睡眠には心を整える効果があり、健全な心身をつくりやすくなります。
- 近年は社会環境の変化から昔に比べて放課後の外遊びが随分と減ったことで子ども達の1日の運動量が減少してしまいました。身体活動量を増やすとお腹が空き食生活の安定にもつながり、しっかり食事をする習慣がつけば必然的に丈夫な身体をつくりやすくなり、エネルギー産生が増えて活動的な生活に結びつきます。
- 工作やブロック遊びなどの「静」の活動と、ボールや縄跳びや鬼ごっこなどの「動」の活動を上手く組み合わせることで、情緒も安定し豊かな生活へと導きます。
- 1日のスケジュールと行う運動を文字や絵カードを用いて掲示し、見通しが立つことで安心して過ごせるようにしています。

## 運動・感覚

- 運動でもっとも必要なのは姿勢の改善で、背骨の中の中枢神経が自律神経にも大きく関わりメンタル面にも大きな影響を与えます。動きの中で理にかなった姿勢をつくるためには骨盤を中心とした胴体からカラダを使うことが肝になり、これが出来れば身体が軽く楽に動ける様になり、表情も変わり気持ちも明るくなります。
- 大切なのは運動神経ではなく運動感覚。運動感覚とは運動時に自分の身体の中で何が起きているかを認識する感覚です。自分のカラダで何が起きているかを俯瞰して考えるようなアプローチを大切にしながら運動を行います。
- jump では感覚統合、運動能力開発向上にコーディネーショントレーニングを中心にアプローチしています。(コーディネーショントレーニングとは、バランス・連結・定置・反応・変換・識別・リズムの7つの能力を伸ばすトレーニング。) 様々なツールや環境変化を利用し、遊び感覚で楽しく夢中になれるように工夫しながら運動プログラムを作成しています。

## 認知・行動

- 1日のスケジュールを確認した上で時間を意識して行動できるように視覚、聴覚などその子どもに合わせた方法で支援します。
- 「簡単そう」「難しそう」「やったらできるかも」「どうせできない」など、活動1つとってもその捉え方は様々です。どのような流れで何をするのか(何がゴールなのか)、どうしたら上手くできるかをお手本やカードを見せることで視覚的に伝えていきます。また、子ども自身の感じ方・捉え方を踏まえて段階的な目標を提示することで「やってみよう」という意欲や行動「これができた」という喜びにつなげていきます。
- ビジョントレーニングを行うことで、目で見えた物の状態を捉える力を高め、見た物を正しく認識し、自分の身体をイメージ通りに動かせることを目指します。視空間認知の力は屋外に出ると自分と車との距離を正確にとらえたり、文字の形が覚えやすくなったりする効果があります。
- 「見る力」の活用ができるようになると、学習や運動に取り組む際の負担が軽減し、事をじっくり考えたり、理解したりする力の習得につながります。

## 言語・コミュニケーション

- 子ども達同士が集団の中で自分らしいコミュニケーションの取り方を尊重しつつ活動できるように、安全性に十分留意したうえで寄り添いながら支援をしています。
- 積極的に屋外活動を行なうことにより、自然と地域の方々とあいさつ等のコミュニケーションが生まれ、子ども達にも自然とコミュニケーション能力が浸透するように支援します。
- 身体を動かして清々しい気持ちになると、ポジティブなコミュニケーションをとることができます。目標を達成するためのコミュニケーションは、お互いの意識を向上させ、より良い関係に結びつきます。
- jump では小集団の中で「他人との対等な衝突」も経験しながら「自分と他者の思いは違う」ということを学ぶ機会もあります。葛藤し、自分なりに折り合いをつけて解決出来たという経験はこれから社会で生きていくうえで大切な経験になります。
- 集団での運動のなかで子ども達に順番を決める、作戦を立てるなど話し合いをしてもらう機会を設け、自分の考えや気持ちを言葉で相手に伝える、相手の意見を聞く経験を積んでいけるよう支援します。目的目標にむけたコミュニケーションは、お互いの意識を向上させ、より良い関係に結びつけるという点でとても大切だと言えます。』

## 人間関係・社会性

- 人と話す機会を増やし、自分の意見や感情を適切に表現できるよう活動の中でソーシャルスキルトレーニングを行ないます。「自分の感情を表に出す前にワンクッション置く」「相手の事情を聴く」などの方法を段階的に習得できるように支援します。
- 身体を動かすと清々しかったり、気持ちよかったです。その状態では自然と頑張っているお友達を褒めるや応援する/されるなどポジティブなやり取りができます。
- 少子化や社会環境の変化により、子ども達を取り巻く環境が大きく変化し、なかなか社会経験を自然に積むことが難しくなっているのが現状です。だからこそ仲間と一緒に頑張る事の楽しさを実感でき、積極的に人と関わる意欲が増す運動を通して集団の中でソーシャルスキルの習得に取り組んでいます。

# 5 領域支援プログラム



## ● 移行支援の内容

jump では、近所の公園など屋外に出る機会も多くあり、日常的に地域住民との関わりをもって活動をしています。餅つきなどの地域行事に参加して子供たちが経験を積むだけでなく、地元の工場見学などに行くことで地域の方に子どもたちの特性や、どのような関わり方をすれば良いかを見たり知ったりしていただく機会としています。将来、子ども達が自分の特性を活かせる仕事に就くことが望ましいと考えていますが職場の理解があることで、より活躍できる社会を目指します。

## ● 職員の質の向上に資する取組

外部の研修案内は事業所内に掲示することで職員への周知を図り、研修に参加しやすい勤務体制を整えており、事業所内研修では実際の事例に基づいた事例検討会や、相槌や褒めることのメリットを考えたり、日常業務の効率化を検討したり、誰もが発言しやすい雰囲気で行っています。

ボランティアで放課後子ども教室の活動依頼を受けることもあり、事業所外での指導をすることで職員も良い刺激を受けながら支援の質の向上に繋がっています。また、普通救命講習Ⅲの講習を受け、資格取得もしています。

## ● 地域支援・地域連携の内容

地域の福祉まつりなどに出展し、地域の方々に療育について周知を図り、子どもから高齢者まで幅広く触れ合うことにより社会福祉に対する理解を深めていただいています。学校や、地域の登下校を見守ってくださる「みまもり隊」の方々とも連携をとり合い、下校時刻の確認や、子どもの登下校の様子を共有し、連携につとめています。

## ● 季節の活動について

春はお花見や虫取り、夏は海水浴や川遊びにでかけ、自然の雄大さに触れながら過ごします。自然の中には危険な事や場所もたくさんあるため、実体験から色々なことを学び、五感でたくさんを感じながら子どもたちはさまざまな感情を覚えていきます。「できないからやらない」ではなく「どうすればできるか」を考え、時には助けを求めることでコミュニケーション能力や問題解決能力を養っていきます。

